

第6回 蕨市立病院整備検討審議会 会議概要

【日 時】 令和6年8月29日（木）午後2時～午後3時30分

【会 場】 蕨市役所 4階 大会議室

【出席者】 （敬称略）

委 員 原澤茂（会長）、早船直彦（副会長）、比企孝司、鈴木智、矢嶋聡子
植田富美子、佐藤政美、岡本和子、塚本二三夫、平野玲奈、坂本美香
事務局 田谷信行（市立病院事務局長）、小川淳治（同次長兼庶務課長）、
津元朋子（同課庶務経理係長）、元井純（同課管理係長）、
小峰聖仁（同課医事係長）、伊藤雅純（同課庶務経理係主査）
島田雅也（総務部政策課主幹）、伊東安治（同課係長）

【次 第】

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議 題
 - （1）地域医療構想調整会議資料について
 - （2）蕨市立病院整備基本構想・基本計画について
 - （3）その他
4. 閉 会

配布資料

資料1 蕨市立病院整備基本構想・基本計画について

■ 内容

【会長あいさつ】

会長：皆さん、こんにちは。今回の審議会では、明日開催される調整会議での報告内容と、基本構想・基本計画についてご議論いただきたい。調整会議は、川口、蕨、戸田の3市からなる南部医療保健圏域の会議であるが、蕨市立病院は明日の会議で、今後の規模と機能についての考え方を報告することが求められている。

【議題】

(1) 地域医療構想調整会議資料について

事務局から、調整会議資料について説明を行った。

会長：病床数については、現時点では、130床を維持する考えだが、敷地面積、床面積等の関係で病床数の確保が困難であれば、削減することもあり得るという内容であり、この審議会でもコンセンサスを得ていると思う。さらに、機能面では、現時点では30床を回復期、地域包括ケアへ転換するとしており、これも今までの議論の内容と合致していると思うが、どなたかご意見はあるか。

委員：130床を維持することについて、さいたま市南区からの医療需要が見込まれるとあるが、これは私も思っていたことである。特に移転後は、立地的に南区からの利用が増えると思う。

委員：30床を機能転換し、急性期は削減する可能性があるとの説明であったが、残りの100床については絶対維持するという意味なのか。個室の要望などで、少なくせざるを得なくなったとき、どの程度調整するのか。

事務局：130床のうち30床を回復期転換する考えであるので、残りの100床は急性期ということになる。そうした状態から、個室の検討等で病床数を減少させる場合は、急性期から減らすことになる。

委員：これまでの議論を踏まえた内容なので良いと思うが、考え方の確認として、30床の回復期については、今後、病院を運営していく中で増減ということもあり得るのか。

事務局：現在の医療提供体制のなかで対応できる病床数ということで30床程度としたものであるが、将来的には、診療報酬改定等のなかで、求められる医療の姿は変わっていく。運営する中で必要に応じて増やしていくということは当然考えており、30床で固定することではないとご理解いただきたい。

委員：内容は問題ないと思う。産科、婦人科系の病床はワンフロアで検討されているのか。また、周産期、小児医療を継続していくということだが、周産期は入院も含めているという考えでよろしいか。

事務局：産科と婦人科の病床について、以前は別フロアであったが、現在は同じフロアで対応している。新病院では、婦人科や産後ケアを含めたレディースフロアのような形も考えられるが、フロア内の配置は課題になると思う。仮に婦人科と産科を一緒のフロアにしたとしても、運用の中で婦人科の患者を別の病棟に移すことはできるので、病院全体で流動的な対応は十分できると考えている。

会長：130床のうち仮に回復期を30、残りを100とすると、診療科にこだわると使い勝手が悪くなるので、もちろん男女の配慮はするが、混合病棟として柔軟に対応できるようにした方が良いと思う。また、全体としては、個室をどの程度設置するのかというのは床面積への影響として非常に重要になってくると思う。

副会長：医療機能、病床数について、その都度必要に応じて変動させることもあるという考え方だと思うので、私も特に問題はないと思う。

会長：それでは、議題（1）についての議論はほぼ出尽くしたと思うので、明日の調整会議では、この原文の通り事務局から説明をしてもらうことで、ご了承いただきたいと思う。

次に、議題（2）について、事務局から説明をお願いします。

（2）蕨市立病院整備基本構想・基本計画について

（資料1参照）

事務局から、資料についての説明を行った。

会長：基本構想・基本計画について、今回は第4章の施設計画の部分の議論となるが、全体を通してご意見はあるか。

委員：アンケートによると、自転車・車での来院者が多いとのことだが、今の市立病院の駐車場は非常に停めにくいと感じている。駐車場をどのくらい確保できるのかということと、併せて、周辺道路の整備や、コミュニティバスなどを含めた交通の利便性がどうなるのかということも気になった。

また、現状の機器で使えるものは残す、という意味のことが書かれているが、遠くても市立病院に行きたいと思ってもらえるように、良い医師や良い機器を入れて、中身の充実も図るという方向で考えていった方がよいと思う。

委員：敷地面積が小さくなるということだが、容積率が200%なので同じ規模以上のものになると思っている。駐車場に関しては、建物内に設けるのか、または外に用意するかで感じが違ってくると思う。

委員：救急病院なので救急車がたくさん来ると思うが、近隣への対応として、付近ではサイレンを止めてもらうということも考えられるのか。

委員：今の駐車場は使いにくい形なので、使いやすい、停めやすい、外来の患者数に合わせた規模の駐車場を確保していただければ良いと思う。「建物整備の基本的な考え方」では、利用者の目線はもちろん大事であるが、働く職員の方の目線もとても大事だと思っている。医師や看護師に長く勤めてもらえる良い病院にするということも非常に大事だと思うので、ぜひ働く方々の意見をたくさん取り入れて頂きたいと思う。

また、電子カルテシステムの導入については、今後を考えたら必須であると思うので、検討をお願いしたい。

委員：新しい病院を9,000㎡とすると、現在の131%くらいの規模になるが、8ページに部門が出ているので、病棟のことも含めてなんとなく割り振りの大きさはイメージできるのかなと思った。産科の患者数は現在は少ないが、一定の個室の需要は見込まれると思うので、経営の面とのバランスを考え収益化につながるような病室の組み合わせをしてもらえればと思う。

電子カルテは、私も重要だと思う。個人的な話だが、8月に健康診断を受けたところでは、今年からアプリを導入しており、事前に問診を済ませるので当日の受付等がスムーズで、結果についても、検査画像をアプリで見ることができ、紹介状もすぐ出せてどこでも受診できるということで、かなり進んでいるという印象を受けた。デジタル化は止まることのない分野なので、市立病院でも進めていただきたい。民間の中小企業であるとデジタル化への補助金が出ることもあり、公立病院が対象となるのかはわからないが、そうしたことも調べていただければと思う。

また、動物園がクラウドファンディングを実施して、一般の人に向けて寄付を募ったこともある。公立病院でやるのが適当か分からないが、例えば、市立病院をこうしたいので少し寄附してくださいとか、クラウドファンディングで良い病院にしましょうという資金的な援助が可能であれば、面白いと思う。

また、9ページの「事業計画」では、色々な発注方式が示されており、どれが良いのかは分からないが、一つ事例として蕨市役所を建て替えたことが経験値としてあると思うので、そのときの方式、メリット・デメリットは参考になると思う。

委員：総合社会福祉センターと西公民館の間の道路については、5ページで検討課題としていただいたので、ぜひ有効活用して欲しいと思う。

先ほど駐車場が使いづらいというご意見があった。私は、20年来のかかりつけ患者としてほとんど車で利用しているが、使いづらいとは一度も思ったことがなく、非常に利用しやすい駐車場だと思っている。移転先では車の利用がさらに増えると考えられるなか、平面だけだと台数に限りがあるので、高層建築や地下を有効活用して駐車スペースを設ける等、一台でも多く停められるようにすることは重要な課題だと思っている。

また、職員や患者さんが利用できる喫茶スペースも必要だと思う。資料には、その記載がないが、現在職員の方の食事はどうしているのかということも気になる。職場環境の改善も含めた、患者さんの憩いの場のような場所が必要と思う。

委員：電子カルテは既に入っていると思っていたが、そうではないということであれば、このタイミングで絶対導入したほうが良いと思う。私も先ほど話のあった、健診のアプリを利用しており、とても良いと感じている。

今回、健診センターを病院に入れるということであり、施設の規模的な心配はあるが、一般患者と異なる動線の検討や、午前と午後で受診時間を調整するというような考えもあったので、そうした工夫があれば可能なのかなと感じている。あとは、プライバシーの配慮ということで、健診ブースの中でも女性ブースというのは特にプライバシーへの配慮が非常に大事な空間だと思っているので、ぜひ検討していただきたいと感じている。

また、医療スタッフのモチベーションを上げていくという点で、研修等に用いる会議室は確実に確保していただきたい。現在は食堂があるということを知っており、患者さんが使うことはなかなか難しいのかもしれないが、スタッフの人も寛げて、患者さんも使えるような休憩スペースがあるとよいとも感じている。

産科に関して、少子化傾向の状況で、公立病院として産婦人科の入院施設を設けるというのはとても大事だと思うが、人件費や医療機材等のいろいろな経費を考えていくと、産婦人科を外来だけとする可能性はどうか、教えて頂きたい。

委員：今まで出された意見の中では、駐車場の問題が多いので、是非検討していただければと思う。

「建物整備の基本的な考え方」では、いくつかキーワードが示されているが、利用者目線から「親しみ」「安らぎ」といったイメージもぜひ入れていただければと思う。親しみという点では、病院が苦手な人も多いので、患者さんに配慮した機能やデザインとすることや、喫茶スペース、売店などの検討も必要になってくると思う。また、「近隣の住環境への配慮」というのも是非キーワードのなかに入れていただきたい。

全体のボリュームを考えた時に、個室というのが議論としては出ているが、新しい市立病院で個室をどのように位置づけていくのかということのもきちんと確認しておく必要があると思う。例えば差額ベッド代をとるのか取らないのか、それによって確保できる数に影響があるのかといったあたりも議論しておきたい。

委員：現在の駐車場は、特に運転の苦手な方にとっては利用しづらいと思う。限られた敷地内に何もかも詰め込むというのは難しい話だと思うので、立体的な駐車場の整備、または病院とは別の敷地に駐車場を確保するなどの必要があると思う。

電子カルテシステムについては、導入の検討ではなく、導入するとして、待ち時間の短縮、ストレス緩和、こういったものも同じく導入するという形で進めて頂きたい。

また、建物については耐震ではなく、免震にしてほしい。耐震にしたことで中の機材が全部だめになるくらいなら、最初から免震構造で建ててほしいという意見が周りからは多い。

救急車については、周辺住民の方たちに迷惑がかかりにくいアプローチの確保やサイレンの鳴らし方等も含めてよく検討していかないと、トラブルに繋がる怖れがあると思う。

副会長：救急部門は、高度なことはやらないとしても、ある程度間口を広くというか、入りやすいような状況を考慮して設計していただいたら良いと思う。

会長：皆さんのご意見が出たので、事務局から答えられる範囲で回答していただきたい。

事務局：たくさんのご意見をいただき感謝する。順不同となるが回答させていただく。

駐車場の関係であるが、現在の駐車場は正面に9台、保健センター側に立体駐車場45台が配置されている。特に立体駐車場は、かなり狭く利用しづらいので、新しい病院では皆さんが安心して停められるようにしながら、収容台数も可能な限り多く整備したいと考えている。立体駐車場の検討もしているが、構造上スロープが必要になり、思ったほど台数が増えないとのことである。費用面や近隣への圧迫感といった影響も当然あるので、慎重に検討していかなければいけないと思っている。また、地下駐車場というご意見もあったが、水害のリスク等も考慮し、十分検討させて頂けたらと思う。

救急車の関係では、現状の運用としても、病院にある程度近づいた段階でサイレンを止めていただいているケースはあるので、蕨市はもちろんであるが、川口市や近隣の消防も含めて運用について協議し、近隣のご迷惑にならないような配慮を前向きに検討させて頂きたい。

職員の目線が重要であるというご意見については、今後も引き続き、聞き取りなど対応させて頂いてまいりたいと思う。また、電子カルテの導入については、ご紹介いただいた健診での活用事例などを聞くと、デジタル化は進めていかなければいけないと感じている。大学病院等の大規模な所では比較的導入が進んでいるものの、中小はなかなか手が出せないという部分もあるが、国では電子カルテシステムの標準化の動きがあり、補助が出る可能性もあると言われている。皆さんのご意見を頂きながら、前向きに検討していきたいと考えている。

健診部門については、基本的に健診エリアと一般の外来エリアを分離していきたいと考えている。分離しない場合、環境的に健診利用者がリピーターとなりづらいと思われることに加えて、人間ドックの関係団体から優良施設として認定されるためにもエリアや動線の分離等にも配慮していく必要はある。ただし、大型機器や専用のスペースが必要な一部の健

診項目、たとえば内視鏡検査等については設備を共有しなければいけない部分もあるので、利用者の動線の工夫をしていく必要がある。

クラウドファンディングについては、埼玉県内の病院でも事例があることは存じ上げている。面白い取り組みであるとは思いますが、今回の建替えという事案ではどうなのかと思う部分もあるので、無理のない範囲で出来るかどうか内部でも議論していきたい。

発注方式の関係については、これまでの市の事業のほとんどは分離発注方式なので、そのノウハウはある程度理解はしているが、DB、ECIは実績がないので、そうした方式については他の医療機関の事例を基に検討していかなければいけないと思っている。

免震については、議会からも進めてほしいとご要望を頂いているのでしっかり検討していきたい。

病室の個室化については、ニーズは非常に高くなっていると考えている。全個室であれば差額を取らないということも考えられるが、個室と4人部屋の組み合わせで個室利用を無料とした場合どう整理していくのかという課題はある。なお、ベッドの必要差額をとれるのは全体の病床数の30%が上限である。個室を無料にすることにより入院患者の増加は見込めると思うので、じっくり検討していく必要があるが、流れとしては、個室化は避けられないことであると思っている。

喫茶スペース、売店、食堂等については、当院にも以前はレストランや売店があったものの、諸事情により撤退してしまった。大規模病院であればコンビニエンスストアがはいっていることもあるが、中小だと経営的に厳しいのかなというのが正直なところである。移転先の隣が総合社会福祉センターであり、社会福祉協議会は市役所のカフェもやっていたということがあるので、病院についても今後ご相談させていただくことは考えている。また、食堂は、現在、主に職員が食事をする場所として設置されている。新病院でも施設の規模的な制約はあるが、なるべく確保していきたいと考えている。

キーワードについてのご意見としては、「親しみ」「安らぎ」「住環境への配慮」といったものをいただいたが、いずれも非常に重要な観点であると思うのでこうしたことも踏まえて全体を検討したい。

産婦人科について、外来のみではどうかということであるが、妊娠し、分娩予約をしてかかりつけとなり、何かあった際には入院していただくという形でこれまでやってきているので、外来のみで患者さんが来るのか正直わからない面がある。入院と分娩の機能が無くなれば、婦人科が主となり、妊婦健診は対応するが分娩に関しては連携する医療機関に紹介するという流れになる。分娩は一人あたりの単価が非常に高いので、その機能がなくなり外来のみというのは、かなり厳しいと感じる。

会長：救急外来へのアプローチの配慮という点が抜けていたかと思うが、どう考えるか。

事務局：今後の設計での検討となるため、現時点で具体的なことは言えないが、可能な配慮はしていきたいと思っている。

会長：立体駐車場や地下駐車場に関しては建物の容積にも影響するので、病院部分の床面積も減少する可能性があることは委員の皆さんにもご憂慮頂ければと思う。

個室の数については、事務局としては30%と考えているという理解でよろしいか。

事務局：できれば差額ベッド代を取れば良いとは思いますが、必ずしも30%ということにとられずに考えているところである。

会長：個室のレベルや料金については、地域性や全体のスペースと合わせて考えていけば良いと思う。

皆さんからの意見が多かったのは電子カルテの導入であったが、これは私も必須であると思っている。事務局の説明のとおり、中小病院の電子カルテ化は非常に遅れており40%～50%程度である。これが300床以上の病院では80%～90%となり、大きくなればなるほど電子カルテ化が進んでいる。今の市立病院のシステムはおそらく「オーダリングシステム」と呼ばれるもので、これは会計と繋がっているシステムあり、病院では、まず導入しやすいオーダリングシステムを入れて、それから電子カルテに進むことが多い。電子カルテに対する補助金の話もあったが、中小病院向けにシステムがパッケージ化される可能性があるというだけで、公立病院が補助の対象となるかは不明であり、現時点では基本的に電子カルテに対する補助はゼロである。電子カルテは様々な部門システム等を接続し、初めて機能するもので、本体以外のところでも全て費用が発生することに加えて、5、6年程度でシステム更新が必要となる。参考までに私自身の四百数十床の病院だと約10億強かかるが、蕨市立病院が130床だからその1/3で済むかという、必ずしもそうでない。一方で、電子カルテを入れているからといって電子カルテ加算というものは全くなく、費用は初期投資、維持管理も全部病院の負担となる。こうしたことも、皆さんには知っておいていただければと思う。そうは言っても、委員の皆さんは電子カルテにした方が良いというのが共通の意見だと思うので、「検討」ではなく「導入する」という方向性を出したほうが良いと、私は思う。

委員：個室について、2人部屋を1人で使うことで個室対応し、その代わり割増料金を払うという形の考えも良いと思う。新しい市立病院には豪華な個室は必要ないと思う。

事務局：当院としても、豪華な個室はそれほど必要ないと思っているが、そうしなくとも今の病室よりは十分快適になると思う。2人部屋を1人という対応はなかなか難しいのかなとは考えている。

会長：料金体系は決まっているので、2人部屋を1人で使うからいくら、という請求は難しいと思う。

委員：市立病院は紹介状が無くては入れない、ということはあるか。

会長：蕨市立病院ではそういうことはない。

委員：私は運営審議会委員も務めており、毎年上半期の数字を拝見している。その中で収益性、回収率、利益的な話も出てくる。今回の構想・計画の良いものを全て取り入れると、投資額がかなりの金額になって、建替えたあとの収益性や回収可能性も考えていかないと後々つらくなると思う。投資と回収、回収可能性も考えて皆にとって良い病院とすることが大事であると思う。電子カルテを優先的に導入するであれば、他の部分は難しくなるというような判断にもなる。

会長：貴重なご意見である。私も運営審議会委員の一人として、いつもお金について発言している。公立病院なので、税金が使われており、現状の市からの繰出しは年間約2億5,000万円である。新病院建替えの予算として約60億円という数字が最初に出たときに、私は1床1億かかる、という話をした。もし130億であれば倍以上となるので、これを本当に認めるのかどうか。発注方式については、公立病院の一括発注はあまり見たことがなく、設計・施工を分離する方式がほとんどかなと思う。そうしたことも含めて、委員からは大事な点を指摘していただいたが、今は答えが出ないと思うので、そういったことを頭にいれて、優先したいものがあれば、これは削ったほうが良いというようなことも今後議論されると良いと思う。

(3) その他

事務局から次回の審議会についての案内を行った。

【閉会】